

マルコの福音書 12:18-27 復活についての真理

今日はマルコの福音書に戻り、最高法院を構成するグループのリーダーたちから投げかけられた3つの質問の内の2つ目を見ていきたいと思えます。3週間前、宮でイエスに対して罷をかけ、イエスのことばによって信用を失わせる方法を模索していたサンヘドリンと呼ばれる最高法院のことをお話ししました。サンヘドリンとはユダヤ人の宗教と市民生活の大部分を支配していた政治的党派でした。今日のマルコ12:18-27は、2つ目のグループであるサドカイ派と呼ばれる人々たちから試された場面です。パリサイ人達に始まり、今度はサドカイ人が、そしてその後は律法学者たちがイエスを試すために質問をします。律法学者たちの質問については、新年が明けてからまた触れることにします。質問をされるたび、イエスはヨハネによるバプテスマで確立し、そのミニストリー全体に渡るご自分の権威を示されました。また、これらのグループがイエスに質問しようとしていた背景を思い出していただきたいと思えます。マルコの福音書12:12は「12 彼らは、このたとえ話が自分たちを指して語られたことに気づいたので、イエスを捕らえようと思ったが、群衆を恐れた。それでイエスを残して立ち去った。」と、どうしてこのような対立に発展していったのかを説明しています。彼らは、社会におけるイエスの影響力を弱めるために、イエスを捕らえる理由を探していました。そしてその目的のために、これら3つの対立が起こるのを見るのです。

今日の聖書箇所であるマルコの福音書12:18-27を読み、2つ目のサドカイ人との対立を見ていきましょう。「また、復活はないと言っているサドカイ人たちが、イエスのところに来て質問した。19 「先生、モーセは私たちのためにこう書いています。『もし、ある人の兄が死んで妻を残し、子を残さなかった場合、その弟が兄嫁を妻にして、兄のために子孫を起こさなければならない。』20 さて、七人の兄弟がいました。長男が妻を迎えましたが、死んで子孫を残しませんでした。21 次男が兄嫁を妻にしましたが、やはり死んで子孫を残しませんでした。三男も同様でした。22 こうして、七人とも子孫を残しませんでした。最後に、その妻も死にました。23 復活の際、彼らがよみがえるとき、彼女は彼らのうちのだれの妻になるのでしょうか。七人とも彼女を妻にしたのですが。」24 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、聖書も神の力も知らないのだから、そのために思い違いをしているのではありませんか。25 死人の中からよみがえるときには、人はめとることも嫁ぐこともなく、天の御使いたちのようです。26 死人がよみがえることについては、モーセの書にある柴の箇所、神がモーセにどう語られたか、あなたがたは読んだことがないのですか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあります。27 神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神です。あなたがたは大変な思い違いをしています。」最初の質問はパリサイ人たちからでしたが、2番目の質問は最高法院を構成する第二の主要グループであったサドカイ人たちからのものでした。ここでの質問とそれに対するイエスの答えを理解するために、サドカイ人と呼ばれていたこのグループについてももう少し理解する必要があります。サドカイ派とパリサイ派はともにイスラエルの歴史においてマカベアの反乱の時代に形成されました。それは紀元前200年～150年ごろ、旧約聖書が書かれてから新約聖書が書かれるまでの400年の間でエルサレムがセレウコス朝によって完全に支配されていたころのことでした。これら2つのグループは、その始まりの時期以外はこの上なく異なっていました。パリサイ派は旧約聖書の3つの部分をすべて受け入れており、イエスご自身もそれら3つの部分全てから引用されています。旧約聖書の最初の5つの書であるトーラー、律法、旧約聖書のほとんどの大預言書と小預言書、サムエル記第一、第二、列王記第一、第二、ヨシヤ記、士師記を含むネビーム、預言書、そしてその他すべての書であるケスビーム、諸書があります。これらすべての書が、イエスとパリサイ人たちに聖典とみなされていたわけです。サドカイ派はモーセによって与えられたトーラー、律法のみを受け入れました。彼らは旧約聖書のその他の書は聖典としては認めず、したがって神からの啓示とは考えませんでした。この律法に関する理解は、彼らを誤った信仰へと導きました。彼らの理解では、トーラーには教えられていなかったために、神の主権を信じず、人が自分で選択できる絶対的な自由意志だけを信じました。今日でも、多くの人がこの誤った神学を信じています。また彼らは死後の世界も見えていなかったため、復活や人

間の死後の命も信じていませんでしたが、パリサイ人やほとんどのイスラエル人は死後の世界を信じていました。

ですから、復活に関する質問は彼らの目には馬鹿げた質問だったわけです。けれど、彼ら自身は復活という考えを完全に否定していたものの、彼らの質問は律法の教えに基づいたものでした。律法にはレビラト婚という関係が記されています。このことを申命記 25:5-6 に読むことができます。「兄弟が一緒に住んでいて、そのうちの一人が死に、彼に息子がいない場合、死んだ者の妻は家族以外のほかの男に嫁いではない。その夫の兄弟がその女のところに入り、これを妻とし、夫の兄弟としての義務を果たさなければならない。6 そして彼女が産む最初の男子が、死んだ兄弟の名を継ぎ、その名がイスラエルから消し去られないようにしなければならない。」目的は一夫多妻制や不道徳を助長することではなく、やもめがイスラエルの人々から離れることなく、子どもを通して将来の安心を得られるようにすることでした。律法で受け入れられているこの伝統に従って、彼らは、復活の際、7人の兄弟の妻であった女性が誰と結婚するのかという突拍子もない質問をしました。この質問は、イエスを罠にかけて捕らえられるようなことを言わせるためというよりも、パリサイ派に対して自分たちの側に立つような発言を得られれば、復活の現実についてパリサイ派に同意しているほとんどの人のイエスに対する信用は無くなり、自分たちの目的に適ったからです。ですが、パリサイ人に対してと同じく、イエスは彼らの質問に対して彼らを黙らせるような答えをお与えになります。

ただ、パリサイ人にとった対応とは違った対応をされました。パリサイ人と違って、サドカイ人たちに、イエスはとても直接的で確固とした答えをお与えになりました。もう一度 24 節を見てください。「イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、聖書も神の力も知らないで、そのために思い違いをしているのではありませんか。」

なんときつい言葉でしょう。イエスがパリサイ人に対して、聖書を知らないことと非難したことはありません。彼らの聖書の知識、そして聖書に基づく本質的な信仰はイエスと同じものでした。ですが、イエスはサドカイ人が神の力を否定していることから、聖書も神も知らないと言われます。選ばれた人々を救いに導くという神の主権を否定し、神が創造された者たちの死後の命に何の希望も見出さないことで、彼らは人類の創造主である聖書の神よりも、人間にのような弱い神を造り出したのです。また、彼らの復活についての考えは、聖書に記されたことに基づくのではなく、聖書の中に啓示されたことによって完全に形作られたわけでもないパリサイ派の信仰に基づいたものでした。彼らは、死後のある時点で神の民が復活することは信じていましたが、それは地上で経験する命がより高められた形で続くだけのものと誤解していました。ですが、イエスは、神の民が待ち望んでいる復活の命とは、この世の人生とは全く異なるものであると指摘しました。イエスはそれを天の御使いたちが経験するような別世界のものに例えています。25 節は「死人の中からよみがえるときには、人はめとることも嫁ぐこともなく、天の御使いたちのようです。」と語っています。

サドカイ人は御使いも信じておりませんでしたので、この応答を通して、イエスは彼らの信仰の核心にも問いを投げかけていたことを理解する必要があります。さて、一見すると、私たちの内で結婚している者たちにとって、これは酷い将来のように聞こえるかも知れません。結婚は、この地上で経験できる最高の関係で、またそうであるべきですが、イエスはその関係が死によって終わると言っておられます。これをいかなる意味でも結婚を否定する発言として受け止めるべきではありません。マルコ 10 章でのパリサイ人たちへの回答で、結婚はとても重要な関係であり、とても深刻な理由なく、離婚することによって結婚の契約を破ることは、神により罪とみなされることをイエスは明らかにされました。マルコの福音書 10:11-12 では結婚に対するイエスの態度が分かります。「イエスは彼らに言われた。「だれでも、自分の妻を離縁し、別の女を妻にする者は、妻に対して姦淫を犯すのです。12 妻も、夫を離縁して別の男に嫁ぐなら、姦淫を犯すのです。」

ですから、私たちの永遠の喜びを増すために、神が結婚を軽んじているわけではないでしょう。むしろイエスは、私たちに約束された永遠の命がどのようなものであれ、この世で経験することができる最も親密で理想の関係よりも素晴らしいものになるという真

理を示しておられるのです。天国と永遠の命という復活の未来を、単にこの世での生活の続きと見ることは、あまりにもちっぽけな見方過ぎます。ピリピ人への手紙 3:20-21 は、その未来を垣間見せてくれます。「しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。21 キリストは、万物をご自分に従わせることさえできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自分の栄光に輝くからだと同じ姿に変えてくださいます。」私たちの存在は、今経験している肉体的な存在ではなく、救い主イエス・キリストが今まさに天国で経験しているのと同じ復活した存在となります。イエス・キリストの復活後の存在は栄光と力に満ちたもので、私たちがいつの日か経験するのもキリストのそれと同じものになるでしょう。

この点については最後にもう一度振り返りたいと思いますが、ここでイエスはサドカイ人の信仰に対する批判を終えていません。彼らは復活が律法の一部でないとして、復活を信じていなかったことを思い出してください。イエスは聖書の誤った解釈と間違った神学に対して出エジプト記 3:6 にある律法そのものの言葉を用いて、最後の決定的な攻撃をされました。出エジプト記 3:6 で神はご自分を次の言葉でモーセに示されました。「さらに仰せられた。「わたしはあなたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」モーセは顔を隠した。神を仰ぎ見るのを恐れたからである。」イエスはその個所を引用した後、27 節で「神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神です。あなたがたは大変な思い違いをしています。」とおっしゃいました。イエスが指摘されたのは、モーセの時代には既に死んでいたアブラハム、イサク、ヤコブの神である、という神の言葉には、死んだ後にも存在し続けるという前提があるということでした。神は生きている人々と約束を交わし、それを守られます。それが地上での肉体的な存在とは違う存在とはいえ、イエスはこれらの人たちがまだ生きていることを前提しています。マタイによる福音書 8 章で、イエスは私たちが将来、この人たちと食事を共にするとさえ言っておられます。マタイの福音書 8:11 はこう言っています。「あなたがたに言いますが、多くの人々が東からも西からも来て、天の御国でアブラハム、イサク、ヤコブと一緒に食卓に着きます。」聖書全体を通して、死について語られているすべての箇所に見られる前提があります。それは、死が通常、何らかの形で存在し続けることと結び付けられていることです。ルカの福音書 16 章では、神に従った生き方をしなかった者にとって、死後の存在は苦しみととらえられています。ルカの福音書 16:23 は「金持ちが、よみで苦しみながら目を上げると、遠くにアブラハムと、その懐にいるラザロが見えた。」と言っています。これはイエスがマタイの福音書 25:46 で「こうして、この者たちは永遠の刑罰に入り、正しい人たちは永遠のいのちに入ります。」と言われたことと一致します。

死後の運命の違いはどこにあるのでしょうか。事実、イエスは死の向こう側に命があることを示されました。永遠の罰ではなく、イエスが言うところの永遠の命を、どうすれば確信することができるのでしょうか。その答えはイエスご自身です。そして、そこに私たちは戻らなくてはなりません。イエスはとてもはっきりと「あなたがたは大変な思い違いをしています。」と言われました。そして、イエスご自身が死からよみがえられることによって、彼らが間違っていることを証明することになるのです。サドカイ人の教えと信仰に対する一番の論証はイエスの人生自体でした。イエスは単に復活が事実であると教えられたのではなく、イエスご自身が復活そのものでした。ヨハネの福音書 11:25-26 でイエスはこのことを明確にされています。「イエスは彼女に言われた。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。26 また、生きていてわたしを信じる者はみな、永遠に決して死ぬことはありません。あなたは、このことを信じますか。」イエス・キリストを信じる者すべてに復活が訪れる日が来ます。テサロニケ人への手紙第一 4:16-17 はこう言っています。「すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、17 それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。」皆さんは永遠にどこかで生きます。この地上での肉体的な存在が私たちの人生すべてではありません。復活した永遠の命を経験することになるか、先に読んだルカとマタイの福音書にあるように

永遠の罰を経験することになるかです。そしてその行先の違いとなるのがイエスです。皆さんはイエスをどうされましたか。サドカイ人たちのようにイエスを拒んでおられますか。あるいは、イエスを受け入れ、イエスを主としてご自分の救い主として信頼されていますか。イエスのみが永遠の命に至る唯一の道です。

さて、この個所の最後のポイントを見ていきたいと思えます。偽りの教理には立ち向かわなくてはなりません。イエスはここでサドカイ人の誤った教えに真っ向から立ち向かっておられます。サドカイ人は聖書の一部だけを、超自然的な要素を失った、彼らの基準に従って受け入れようとしてしました。これは、啓蒙思想に始まり、過去 300 年ほどの間に自由神学主義が歩んできた道です。哲学者や神学者たちは、神や聖書への信仰を主張していたものの、そのために合理主義的な世界観にそぐわないものを排除しました。ですから、奇跡は認められませんでした。神からの啓示というレンズを通して聖書を見るのではなく、神話や史実でない出来事を多く含んでいて、何らかの形では神について教えてくれるものの、歴史書としては当てにならない書物として聖書を見る必要がありました。そのような理解は今日も続いており、聖書を神からの神聖で権威ある啓示として、誤りのないものとして受け入れるべき福音派を名乗る人々の中にさえ見られます。そして、聖書が真実だと信じていると言いながら、人々を不愉快にさせてしまう可能性のある聖書の難解な部分を拒絶したり無視したりしたがる人も多くおられます。私たちはそのような誤った教えを排除しなくてはなりません。この本に書かれていることはすべて真実であり、イエスは偽教師たちに対して「**あなたがたは大変な思い違いをしています。**」と決して言葉を濁すことはありませんでした。**テモテへの手紙第一 3:15** で、パウロは教会を「**真理の柱と土台である、生ける神の教会**」と呼んでいます。教会には、長老たちに始まり、信徒一人一人に至るまで、偽りの教えを指摘し、信徒内での神のみ言葉の権威を守る責任があります。ですから、最後に、長老たちだけではなく、教会として私たちが教会の教義を守るよう挑みたいと思えます。そのためには、神のみ言葉を知り、神のみ言葉を自分の人生に、そしてキリストの体である教会に反映しなくてはなりません。私たちが真理を大切に、誤りには立ち向かうことを厭わない、み言葉の人々でありますように。またそれゆえに純粋な福音をもって人々に語り、共に復活された救い主イエス・キリストと永遠の栄光の人生を歩む復活へと招く者でありますように。祈りましょう。

Mark 12:18-27 The Truth About Resurrection

Today, we are back in Mark, and looking at the second of 3 questions that Jesus is confronted with by different sects of leaders from the Sanhedrin. If you remember 3 weeks ago, we were introduced to the Sanhedrin who confronted Jesus in the temple and were looking for a way to trap him and discredit him in his words. As a reminder the Sanhedrin was the ruling party that governed Jewish religious and much of their civic life. Today's passage in Mark 12:18-27 is the second of these tests from the group known as the Sadducees. Beginning with the question of the Pharisees, now the Sadducees and still to come, the Scribes will question Jesus to test Him. We will come back to the question from the Scribes after the New Year. In each event of questioning, Jesus demonstrates his authority, which we saw was established at his baptism by John and has characterized his entire ministry. And remember, the context in which these groups are now seeking to question him. [Mark 12:12](#) leads into these confrontations by telling us, [12 And they were seeking to arrest him but feared the people, for they perceived that he had told the parable against them. So they left him and went away.](#) They are looking for a reason to arrest Jesus to undermine his influence in society. And it is towards that purpose, we see these three confrontations happen.

Lets begin by reading our passage for today, Mark 12:18-27 and see this second confrontation with the Sadducees. [18 And Sadducees came to him, who say that there is no resurrection. And they asked him a question, saying, 19 "Teacher, Moses wrote for us that if a man's brother dies and leaves a wife, but leaves no child, the man\[a\] must take the widow and raise up offspring for his brother. 20 There were seven brothers; the first took a wife, and when he died left no offspring. 21 And the second took her, and died, leaving no offspring. And the third likewise. 22 And the seven left no offspring. Last of all the woman also died. 23 In the resurrection, when they rise again, whose wife will she be? For the seven had her as wife." 24 Jesus said to them, "Is this not the reason you are wrong, because you know neither the Scriptures nor the power of God? 25 For when they rise from the dead, they neither marry nor are given in marriage, but are like angels in heaven. 26 And as for the dead being raised, have you not read in the book of Moses, in the passage about the bush, how God spoke to him, saying, 'I am the God of Abraham, and the God of Isaac, and the God of Jacob'? 27 He is not God of the dead, but of the living. You are quite wrong."](#) Remember, the first questioning happened with the Pharisees, and now this second question happens from another group the Sadducees, the second major group in the Sanhedrin. And in order to understand the questions here and Jesus's response, we need to understand more about this group known as the Sadducees. The Sadducees, and the Pharisees both formed during the period of the Maccabean Revolt in Israel's history. This was sometime around 200 – 150BC, when Jerusalem was fully controlled by the Seleucids during the 400 year period between the writing of the Old Testament and the New Testament. Other than their founding date, these two groups could not have been more different. The Pharisees accepted all three sections of the Old Testament, which Jesus himself did as well since he quoted from all three of the. There was the Torah or the Law, the First 5 books of the Old Testament; the Nivi'im or the Prophets which included most of the Major and Minor prophetic books in the Old Testament as well as 1 and 2 Samuel, 1 and 2 Kings, Joshua and Judges; and the Ketuvim or the "Writings" which included all the other books. So, all of these books were considered Scripture by Jesus and by the Pharisees. The Sadducees only accepted the Torah, the books of the law given by Moses. They did not consider any of the other writings of the Old Testament to be Scripture and

therefore Revelation from God. This understanding of the Torah led them to other false beliefs. Because in their understanding, it was not taught in the Torah, they did not believe in God's Sovereignty, but only in the absolute free will of humans to make their own choices. Many today also believe this error of theology. They also did not see any afterlife so they did not believe in a resurrection or any life past human death, while the Pharisees and most of Israel believed in an afterlife.

So, their question regarding resurrection is absurd in their eyes. But while they themselves would have flatly rejected the premise of resurrection, their question itself was based on teaching from the Torah. In the law, it describes a relationship known as Levirate marriage. We read about this in [Deuteronomy 25:5-6](#). 5 "If brothers dwell together, and one of them dies and has no son, the wife of the dead man shall not be married outside the family to a stranger. Her husband's brother shall go in to her and take her as his wife and perform the duty of a husband's brother to her. 6 And the first son whom she bears shall succeed to the name of his dead brother, that his name may not be blotted out of Israel. The goal was not to promote polygamy or immorality, but to allow a widow to not have to go outside the people of Israel to have the security of her future through children. Following this accepted tradition in the law, they asked this absurd question regarding who of the 7 brothers would be married to the woman, who had been the wife to each of them, when the resurrection happened. This question is not so much meant to trap him into saying something that could cause his arrest, but if they could trip him up into siding with them against the Pharisees, it would serve their purposes as it would discredit him to most of the people who agreed with the Pharisees on the reality of resurrection. But just as with the Pharisees, Jesus will provide an answer to their question that will shut them down.

He does deal with them differently, though than the Pharisees. Unlike with the Pharisees, to the Sadducees, Jesus gives a very direct and firm answer. Look again at verse 24, [24 Jesus said to them, "Is this not the reason you are wrong, because you know neither the Scriptures nor the power of God?"](#) Wow! This is strong language. To the Pharisees, he never accused them of not knowing the Scriptures. Their knowledge of the scriptures and even essential beliefs based on those scriptures matched his own. But to the Sadducees, he says, you don't know the Scriptures- the Bible and you don't understand God, because you deny his power. By denying God's sovereignty in electing those he chose to salvation, and then not seeing any hope for life after death for those God has created, they had created a weak version of God that resembled humanity more than humanity's creator, the God of the Bible. And their ideas of the resurrection were based not on anything found in the Bible, but on the Pharisees beliefs, which were also not fully shaped by Biblical Revelation. While they believed in a resurrection for God's people at some point after death, they mistakenly believed it was essentially to a life that continued on just in a more elevated way as what we experience on earth. But Jesus points out that the resurrected life the people of God look forward to is one completely different than this life. He compares it to something that is so otherworldly that it is what the angels experience. Verse 25 says, [25 For when they rise from the dead, they neither marry nor are given in marriage, but are like angels in heaven.](#)

You have to understand that the Sadducees did not believe in angels either, so throughout this response, Jesus is challenging them to the core of their faith. Now, on the surface, for those of us who are married this may sound like a terrible future to look

forward to. Our marriages are or should be the best relationships we can experience here on earth, but now Jesus is saying those relationships end at death. We should not take this as a statement against marriage in any way. Jesus has already made clear in his response in Mark 10 to the Pharisees, that marriage is so important that to break the marriage covenant by divorce for all but the most severe reasons would be counted as sin by God. [Mark 10:11-12](#) shows us Jesus's attitude towards marriage. [11 And he said to them, "Whoever divorces his wife and marries another commits adultery against her, 12 and if she divorces her husband and marries another, she commits adultery."](#) So, God would not have a low view of marriage to add to our eternal joy. Rather, Jesus is pointing us to a truth that whatever our eternal state of life has in store for us will be far better than the relationship that ideally is the closest and most intimate we can experience on earth. A view of Heaven and eternal life that looks at that resurrected future and sees simply a continuation of our life here on earth is far too small a view. [Philippians 3:20-21](#) gives us a glimpse of that future. [20 But our citizenship is in heaven, and from it we await a Savior, the Lord Jesus Christ, 21 who will transform our lowly body to be like his glorious body, by the power that enables him even to subject all things to himself.](#) Our existence will not be the physical existence we experience now, but a resurrected existence that is same as our Savior, Jesus Christ is now experiencing in Heaven. His resurrected existence is one of glory and power that will in some way will be the same as that we will experience.

I want to come back to this idea at the end, but Jesus is not done with his critique of the Sadducees beliefs. Remember, they claim to not believe in the resurrection because they claimed it was not part of the Torah. So, Jesus delivers a final devastating attack against their misinterpretation of Scripture and bad theology, and he does it using the words of the Torah itself from Exodus 3:6. In [Exodus 3:6](#), God introduces himself to Moses with these words, [6 And he said, "I am the God of your father, the God of Abraham, the God of Isaac, and the God of Jacob."](#) And Moses hid his face, for he was afraid to look at God. Jesus follows up his quote of that passage with verse 27, [He is not God of the dead, but of the living. You are quite wrong.](#) Jesus was pointing out that by God saying that he was the God of Abraham Isaac and Jacob, all who were dead by the time of Moses, there was an assumption of continuing existence for them beyond the grave. God makes promises and keeps them with living people, and Jesus is assuming that these men of God are still alive, even though it is an existence outside of our physical life on earth. In Matthew 8, Jesus even says that we will share a meal with these men in the future. [Matthew 8:11](#) says, [11 I tell you, many will come from east and west and recline at table with Abraham, Isaac, and Jacob in the kingdom of heaven...](#) There is an assumption throughout the Bible in every place that death is spoken of, that it is usually connected with a continuing existence of some form. In Luke 16, that existence beyond death for one who has not lived a godly life is seen as torture. [Luke 16:23](#) says, [23 and in Hades, being in torment, he lifted up his eyes and saw Abraham far off and Lazarus at his side.](#) This goes along with what Jesus says in [Matthew 25:46](#), [And these will go away into eternal punishment, but the righteous into eternal life.](#)

What makes the difference in our destiny after death? The fact is that Jesus has shown that there is life beyond the grave. How can we be assured of what Jesus calls eternal life, rather than eternal punishment? The answer is Jesus himself. And that is where we must return. Jesus is very clear – [you are quite wrong!](#) And he himself would prove them wrong by rising from the dead. The strongest argument against the teaching and belief

of the Sadducees will be Jesus's life itself. Jesus does not just teach that resurrection is real – he is the resurrection! In [John 11:25-26](#) Jesus makes this clear, [25 Jesus said to her, "I am the resurrection and the life. Whoever believes in me, though he die, yet shall he live, 26 and everyone who lives and believes in me shall never die.](#) There is a resurrection coming for all those who believe in Jesus Christ. [1Thessalonians 4:16-17](#) says [16 For the Lord himself will descend from heaven with a cry of command, with the voice of an archangel, and with the sound of the trumpet of God. And the dead in Christ will rise first. 17 Then we who are alive, who are left, will be caught up together with them in the clouds to meet the Lord in the air, and so we will always be with the Lord.](#) You will live somewhere forever. Physical existence on this earth is not all there is to our lives. You will experience a resurrected eternal life or you will experience the eternal punishment describes in Luke and Matthew that we read earlier. And the difference in those destinations is Jesus. What have you done with Jesus? Have you rejected him as the Sadducees had? Or do you accept him and put your faith in him as your Lord and your Savior? He is the only way to eternal life.

Finally, I want us to see one final application from this text. False doctrine must be confronted. Jesus confronts the false teaching of the Sadducees here directly. The Sadducees wanted to accept only parts of the Bible, and on their terms where it lost its supernatural elements. This is the path that theological liberalism has taken over the course of the last 300 or so years beginning with Enlightenment Rationalism. Philosophers and theologians wanted to still claim a belief in God and to a lesser degree the Bible, but they did that by removing anything that did not fit with a rationalistic world view. So, miracles had to go. Viewing the Bible through the lens of Divine Revelation from God had to be replaced with viewing it as a book that contained much myth and non-historical events that would teach us about God in some way, but could not be relied on as history. That sort of understanding continues today, even in some who call themselves Evangelicals which should mean you accept the Bible as Divine and Authoritative Revelation from God, inerrant even. But many today want to reject or ignore difficult parts of Scripture that may offend people while still saying they believe the Bible is true. We must call that false teaching out. Everything in this book is true, and Jesus did not mince his words when he said to these false teachers, **"You are quite wrong!"** In [1Timothy 3:15](#), Paul calls the church, **"the church of the living God, a pillar and buttress of the truth."** The church has a responsibility starting with the Elders, but going through each member to call out false teaching and protect the authority of the Word of God within the congregation. So, as we close, I challenge us as the church, not just Elders, to protect the doctrine of the church. To do that, you must know the Word of God, and apply the Word of God to your own life and then the life of the Body of Christ. May we be a people of the Book who care about truth and are willing to confront error, so that we confront people with the pure gospel and invite them to experience with us the resurrection to an eternal life of glory with our risen Savior Jesus Christ. Let's pray.